

学 会 案 内

第51回 日本小児呼吸器学会 —多職種連携と知識共有—

北海道医療大学病院小児科医長、診療教 柴 田 睦 郎

平成30年9月28日(金)、29日(土)の二日間、ロイトン札幌を会場に第51回日本小児呼吸器学会を開催します。共催を日本アレルギー協会北海道支部(支部長 有賀正北海道大学名誉教授)にお願いしました。

本年は北海道命名150年、命名者の松浦武四郎生誕200年に当たる節目の年になります。今まで第17回(昭和59年)旭川 吉岡一先生、第41回(平成20年)函館 石川悠加先生、第45回(平成24年)旭川 坂田 宏先生と過去3回、北海道で開催されています。札幌開催は初めてですが近くの大通り公園ではオータムフェスト2018も開催されており、全国から多職種の方々が大勢参加して下さることを期待しています。岩尾一生事務局長(当院薬局長)、実行委員(有賀名誉教授、北大小児科新旧医会長および感染症班有志、会長経験者の石川先生、坂田先生)の方々と時間をかけ準備して参りました。旭川医大小児科東教授、札幌医大堤名誉教授からも折に触れご助言を賜りました。

本学会の目的 —小児呼吸器学に関する学術の進歩、知識の普及、会員相互の連絡、内外の関連機関との連絡を図り、小児の健康の増進および医療の進歩・普及を図ることに寄与する— の達成のために、学術集会を実り多いものすべく北海道小児科医会に御支援をお願いしたところ、快くご寄附いただき厚くお礼申し上げます。

今年は第50回のテーマ「50周年、そして前へ」を受け、一般演題の他に多分野の「教育講演」、中国からの「招請講演」、「シンポジウム」、「間質性肺疾患に関するワークショップ」、「ハンズオンセミナー」など多くの企画を準備し「多職種連携における知識共有」への一步をしるす意気込みです。北海道発のシンポジウムでは国立病院機構八雲病院の石川先生と札幌市立大学の松浦教授に座長をお願いしました。「在宅呼吸ケアと医療的ケア児の呼吸管理上の問題点・地域連携の現状」のタイトルの下で歯科医師・看護師・理学療法士・薬剤師・事業者—薬剤師—当事者と他職種の方々のご発表をお願いしました。多職種間の視点の違いによる知識のギャップを発見し意見交換を通して知識の共有を目指すのが目的です。

託児の準備にはエゾモモンガ会(北海道小児科男女共同参画会議)のご協力を得ました。

たくさんの方々の参加をお待ちしています。